



「Tさんとアフリカの子どもたち」 の資料を使用した道徳の授業

報告者 京都府舞鶴市立倉梯第二小学校 森 祐子先生

1. 活動のポイント

本学級の児童は、高学年の一員として、様々な活動を積極的に取り組んできた。しかし、自分と直接かかわりがないため、生活していくうえで苦労している人への気づきや思いやりの心については、まだ弱く感じられる。今後、最高学年として、また大きく成長していく上で広い視野で世界をとらえ、かかわっていってほしいと願っている。

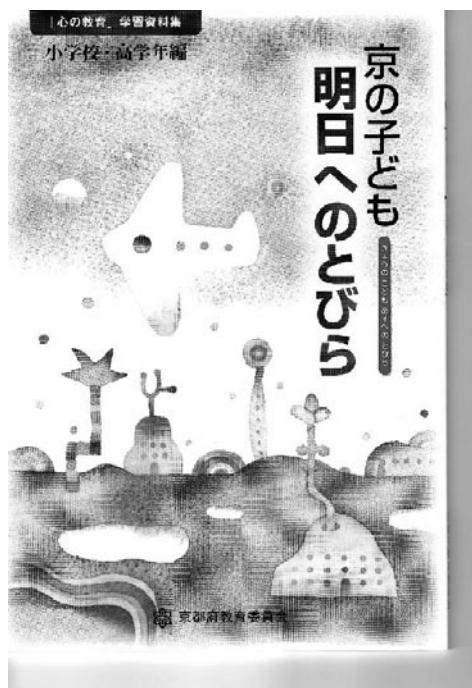
そこで、今回の道徳の授業で、「Tさんとアフリカの子どもたち」という資料を使い、思いやりの心の大切を知り、自分にできることを考え、もっと自分を輝かせて生きていこうとする心情を育てていきたいと考え、本主題を取り上げた。

授業を進めるにあたっては、子どもたちにとって身近な地域を捉えて作成された京都太陽の園、徳川輝尚さんが書かれた資料を活用した。子どもたちが自己実現に向かっていくためには、より一層自分たちの生活と身近であることを感じてほしいことを願った。

2. 実 践

- (1) 主題名 思いやりの心 2-(2) 思いやり・親切
- (2) ねらい 思いやりの心の大切さを知り、自分にもできることをもっと輝かせ生きていこうとする心情を深める。
- (3) 資料「Tさんとアフリカの子どもたち」について

本資料は、京都府教育委員会が作成した「京の子ども 明日へのとびら」高学年編の資料である。題名は、「Tさんとアフリカの子どもたち」で、社会福祉法人京都太陽の園常務理事、徳川輝尚さんの作品である。



京都府教育委員会作成

Tさんは、高等学校に通っていたとき器械体操の選手として、県の大会で準優勝をするほどの活躍をした。ところが、高校2年の終わりごろに、鉄棒の練習中に手がすべり、頭から地面に落ち、第五頸椎を脱臼し、手も足も動かない重度の障害者になってしまった。生活のすべてに介助がいり、動かない手足は細くやせ衰えていった。その後、Tさんは、22才でふるさとを離れ、重度障害施設に入ったが、心はふさがれたままであった。ところが、アフリカで飢餓のため食物がなく、死んでいく子どもの写真を見てショックを受けた。「世の中には、もっと不幸な人がいるのだ。」と知り、アフリカの子どもたちを助けるために募金活動を始めた。Tさんは、「ありがとうございました。」の言葉を残して38才でなくなった。その施設では、Tさんのまいた種が「まごころ募金」となり、毎年、飢餓や災害に苦しむ人々に送られている。この話は実際にあったことであり、Tさんに学び、自分たちにできることを考えよう提起している内容である。

(4) 展開の大要

	学習活動	指導上の留意点
導入	1、自分が、これまでの生活で気落ちしたり、悲観したりしたことを考え発表する。	・一人一人が課題意識を持って考え、話し合いに参加できるようにする。
展開	2、資料「Tさんとアフリカの子どもたち」を読んで話し合う。 ①Tさんが障害者になって、どのように、またどんな思いで過ごしたでしょう。 ②一冊の雑誌を見たTさんは、どんなことを思い、どうしたでしょう。 3、今までの自分を振り返って話し合う。	・高校生として活躍していたときのことと比べ考えさせる。 ・ワークシートに記入することで、自分を振り返ることができるようとする。
整理	4、教師の説話を聞く。 ・この話は、実際にあったことを伝える。	・Tさんのまいた善意の種が、30年以上も続けられていることを考えさせる。

(5) 児童の感想

- ・Tさんの話を聞いて、私たち5年1組はあきかん集めをしました。最初は、全校のみんながかんを持ってくれるか不安でした。けれども、よびかけをしてたくさん的人が持ってきてくれました。集めた結果7千2百円のお金が集まりました。私は、このお金には、5年1組のみんなの「世界中の人たちが幸せになれるように」という気持ちが入っていると思うので、世界中の人たちのために使ってほしいです。
- ・Tさんのお話を知って私は、はじめて、恵まれない人のことを知り考えました。みんなとボランティア活動の1日目は、めんどうくさそうに、だらだらしていました。しかし、2日目は、少し変わっていました。楽しくなってきたのか、みんなうきうきしていました。その日に、みんなで話し合いをしました。すると、「あいさつ」をすることにしました。いろんな人に、持ってきてもらい、すごくうれしいです。「ありがとう」というと、またつきの日に、持ってきてくれるので。多くの人から幸せをもらっているようです。おかげで「3437個」も集まりました。これだけ、集まったのは、全校と、そしてこのお話を教えてくれた「徳川さん」のおかげです。私たちは、こうして給食をふつうに食べているけれど、その間にも、8億人の人がおなかをすかしているのです。こうして、募金することで、おおぜいの人の命が助かるのです。
- ・ぼくたちは学校で、かん集めというボランティアをやりました。このボランティアのきっかけとなったのが、Tさんのお話とそれを書いてくれた徳川さんです。ぼくたちは、このお話のおかげで最後までやり切ることができました。このお金で、いろいろな貧しい国の人たちに、食べ物や病気のための薬を配ってほしい、子どもも大人も、全員救ってほしいと思います。このぼくたちのボランティアは、何もかも、Tさんのお話をつくってくれ伝えてくれた徳川さんのおかげです本当にありがとうございました。

3. 成果と課題

今回の授業は、「思いやりの心、あなたにできること」というねらいで学習を進めてきたが、授業の最後に、子どもから「募金をしたい」という発言があった。私は、できるのだろうか心配であったが、よい経験になるのではないかと考え、その後の活動を考えた。その結果、アルミ缶を集めてお金に変えることにした。そして、授業で使用した資料を書かれた徳川輝尚さんのお話の中に出てくる「まごころ募金」を通じて、ユニセフに送っていただいた。3学期には、ユニセフの学習を通して、募金で集めたお金がどう使われているかという学習を考えている。子どもたちは、人の役に立てたこと、自分たちにもできたことに満足できるよい学習になった。